

平成 27 年 10 月 13 日

# 南の風 154

南部ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

「ゾーン禁止」が正式に決定したのなら、低学年や経験の少ない選手のことを、十分理解した上で、罰則ありきではない導入を考えるべきです。

私は、コミッショナーを置くことにもあまり賛成ではありません。なぜなら、決まったことを遵守することは指導者のモラルなのです。コーチが指導しなければ選手が勝手にゾーンをやることは考えられないからです。また組織側も153号でも触れたように、粗を探すような「ゾーン探し」は絶対止めるべきです。

この問題の最後に、神奈川県ミニ連としては、傘下の地区ミニ連がばらばらに対応することのないように指導性を発揮してほしいと願います。例えば、地区ミニ連が勝手に罰則を設けるようなことは絶対にあってはならないということです。

また、中体連や中ク連ともコンセンサスを得たいと思います。小中連携の一環として考えなければならない問題でもあるからです。

さて先日、中原 貴子（旧姓加藤 貴子）の中学生向けクリニックが南スポーツセンターで開催されました。私がやっている練習会を中心にして83名の参加がありました。

中原 貴子（旧姓加藤 貴子）の経歴を簡単に紹介します。

加藤 貴子と言えばJETの愛称で一世を風靡したスーパースターです。1996年のアトランタオリンピックでは、日本初の7位入賞の原動力となりました。中学時代、笹下中では全中準優勝、富岡高校（現金沢総合高校）ではインターハイ優勝、ウィンターカップ準優勝でした。（このウィンターカップでは、1試合51点という大記録も達成しました。この記録はまだ破られていません）そして、高校生では初めて全日本のメンバーに選出されました。さらに、シャンソン化粧品では、何と10連覇の偉業を成し遂げ、中心選手として大活躍しました。2000年には、イタリア・セリエAのプリオロに日本人初の選手として参加しました。膝の持病もあり、プリオロには短い在籍となり2001年に引退し、現在クリニックや講演の活動を行っています。

実は彼女は、南台ミニバスケットボールクラブ（横浜南部ミニ連盟）に所属していました。ミニバス時代に168cmの身長があり、しかも運動能力にたいへん優れた選手でした。印象としては、非常にプレイがしなやかな選手でした。シュートタッチやドリブル・パスにおけるボールの扱いが柔らかかったのを記憶しています。身長が高いにも拘わらず、身のこなしも素早く相手からすると高校生が一人いるといった印象でした。私はその頃、常盤台ラークスミニバスケットボールクラブで指揮をとっていました。市大会や県大会では、いつも加藤選手に悔しい思いをさせられた思い出があります。

そのJETと久しぶりに再会し、クリニックの打ち合わせをしました。

クリニックの中で特に印象に残ったことを書きます。ボールのもらい方とステップです。特にペイントでのもらい方です。ここでもボールのもらい方は、6種類です。完全なポストでのもらい方と外から中へカットした時のもらい方ですが、瞬間的な体の入れ方とステップが参考になりました。